

令和 6 年 1 月 22 日

会 議 録

審 議 会 等 の 名 称	令和 5 年度 函南町水道事業審議会（第 2 回）
庶務を担当する所属	建設経済部 上下水道課
会 議 の 開 催 の 日 時	令和 5 年 12 月 15 日（金） 午前・ 午後 1 時 30 分
会 議 の 開 催 場 所	函南町役場 4 回 特別会議室
出席者（職・氏名）	函南町水道事業審議会委員 14 名 会長 八木戸一重 委員 田口彰一、野田哲郎、野田道子、渡邊正樹、 渡邊節夫、足立安男、仲川孝一郎、小泉義昭、 石川政昭、大木隆幸、井手尾達、幸野宗昭、 杵寄賢 建設経済部長 平井輝久 上下水道課 課長 村上克司 課長補佐 藤原敏、井野直樹 係長 梅原和美、山田正和
議 題	諮問審議 函南町田代、軽井沢、丹那地区簡易水道事業運営の 検証及び水道料金について
審 議 内 容	資料に基づき説明・質疑応答。 委員 田代軽井沢地区と丹那地区の料金の差がなぜ できたのか教えてほしい。 事務局 過去を遡ると、元々田代軽井沢地区の水道の 中に、丹那地区の水道の利用者が統合されたという 形になっており、統一時の料金は、両区のそれまで の料金を基に設定されているため、料金形態に差が 出ている。 委員 地区に説明する際に過去の経緯を知っておき たい。 委員 私が知っている範囲で話をすると、田代軽井沢 が、まず簡易水道を田代の水源から取っていた。そ の後、丹那地区の水が出なくなったということで、 丹那地区から申し入れがあり、余水を丹那地区に配 水することになった。料金は、田代軽井沢は農家が

多くてたくさん水を使う、丹那は余水を使うし使わないからということで差が出たと思う。

委員 酪農家が昭和 50 年代、平成初期から減っているという過程の中から、使用水量 101 m³以上の利用者が全体の 15%位に下がってきているという現実を見なければいけない。これから背負っていかれる若い人たちや住んでいる方が納得できる基礎的なデータがないといけないと思う。統一していくのが一番いいが、50 年してこなかったものをここでやるのは相当無理があるが、それをしておかないと、水源の問題や補修工事等に影響してくる。

委員 農業は厳しい状況に置かれており、営業又は事業用というのを作って、家庭用とは別料金でやらどうかと思う。ただ、別にメーターの設置や配管も変えなければいけないから初期投資は要と思うが、全体で見ればそういう風にしたらほうが農家の皆さんは助かるのではと感じる。

委員 値上げしないと維持できないのは承知したが、内部留保がある程度溜まったら今度は逆に今後値下げとかというのは考えられるのか。

事務局 現状では難しい。内部留保、貯金みたいなものが貯まってきて十分だということになれば、値下げも当然候補には入ってくるが、田代軽井沢丹那地区は範囲が広い。水道の管路も長く、有収水率も低いため、管路の更新費用も見込まれる。施設もたくさんあり、施設更新も考えなければならぬため、短期的には難しい。

委員 田代区は集落排水をやっている。仮に基本料金が 100 m³ 4,700 円となった場合、今は水道料金の総額で下水道料金を払っていると思うが、調整できる要素はあるのか。

事務局 水道料金は、現行の料金体系で使った水の量に対して請求しているが、農業集落排水の使用料は、使った量ではなく一戸当たりの基本料金と、人数割りで請求させていただいている。

委員 どの案にするのか皆さんで検討していった方がいいと思う。私はD案の町の方と同じものにしたらどうかと思う。ただ、今までと大分変わると利用者も大変困ると思うので、超過料金を 100 円とか 90 円とかに下げて、その辺のシミュレーションを 1 回やってもらったらどうか。それで、農業用に使う人は別個にまた料金体系を作るとかという工夫をしてもらえればと思う。

事務局 本日、最終決定というところではないので、上水道の方をベースにした超過料金を少し直してご提示できたらと思う。

	委員 50 m³までの使用量がほぼ半数ということは、その当たりのところを基本料金として、それから超過料金というのが割と皆さん納得できるような数値ではないかと思う。基本水量は少し抑えめにして、超過料金の方で少し稼ぐというのが基本的な考え方でいいのではないかと思う。 委員 前回1回目の資料に、前回の改正の答申書があるが、この時点においても料金の統一について検討されていて、今回は統一しないという結論になったわけで、その後30年弱そのままに置かれていることに大きな問題があるのかなと考える。統一をしなかったときの理由が書かれている。過去、田代軽井沢地区が、導水管工事を地元負担により施工した経緯がある、だからその負担分程度の使用料金差があってもいいのではないかというのが当時の代表者の意見であった。そういう流れがあるということだが、今回料金の統一化は避けられないと思うので、特に直接関係のある田代軽井沢の方の理解が得られるというような感触でいるのか。先ほどA案からD案の話があったが、まずはB案くらいの部分でやっていき、それで3年か5年の期間で必ず見直しをしていき段階的な値上げを踏んでいく体制を作っていくことが必要なのかと。一気に元を取るようなものは中々難しいと考える。そういう意味において、3年5年以内の見直しは必ず行うとかの明記をしていくということではないかと思う。 会長 色んな意見をいただいた。これを踏まえて改めて資料を提供してもらおうということでいいか。 (委員賛同) 会長 それでは事務局の方で意見をまとめて次回資料を提出することをお願いする。 事務局 それでは、50 m³を基本としたらどうか、あるいは20 m³を基本としたらという提案をいただいたので、このあたりを中心に案を示したいと思う。 次回を1月下旬から2月上旬で開催させていただきたいと考えている。
備	考